

はじめる助成団体に対するフォローアップ調査結果(2019年度)

I 2019年度の助成金応募状況

地球環境基金助成メニューの一つであるはじめる助成は、「助成期間で得られた知識・経験を用いて、将来はひろげる助成の対象になること」を期待して実施しているものである。

平成30年度にはじめる助成を受けた10団体における、2019年度応募状況は以下のとおりであった。

表1 平成30年度はじめる助成団体における、2019年度応募状況

2019年度 応募状況	応募 団体数	うち採択 団体数	うち不採択 団体数	不採択団体の不採択理由(抜粋)
ひろげる 助成	1	0	1	・要望活動が多岐にわたり、活動全体のビジョン、メッセージ、活動戦略を要望書から読み取ることができず、助成の優先度が低くなった。 ・団体の活動のどの部分が助成要望活動なのかの整理が読み取れず、優先度が低くなった。
つづける 助成	6	4	2	・掲げた目標を達成するための活動として必要な全体計画が十分要望書から読み取れないため、優先度が低くなった。 ・団体の活動立ち上げ期には、事業計画に多様な活動が盛り込まれており、効果的な事業実施に不安があることから、助成の優先度が低くなった。
応募なし	3 (30%)			
合計	10	4 (40%)	3 (30%)	

2019年度に採択された割合は40%(4件)と、前回の調査(35%)から採択率は上昇しているが、前々回の調査(56%)と比べては低下であった。

また、ひろげる助成より、つづける助成に応募した団体の方が多かったこと(6団体)は、つづける助成の目的や助成対象活動などが団体のニーズに合っていたからと考えられる。

次に、平成30年度にはじめる助成を受けた10団体のうち、2019年度の助成団体として採択された4団体と、応募したが不採択となった3団体を除く3団体を対象として、助成を要望しなかった理由などをアンケート調査票で取りまとめた。

II 助成を要望しなかった団体について

1) 活動の継続実施の有無

「助成活動は、継続して実施していますか」という質問に対し3団体ともに「継続している」と回答した。
(表2)

表2 活動の継続実施の有無

区 分	対象団体数 3件	
	件 数	構成比
a. 継続している	3	100%
b. 継続していない	0	0%

2) 助成を受けて行った活動の志向について

地球環境基金の助成を受けて行った活動について、3団体がもつ志向は、以下のとおりであった。
(表3)

表3 助成を受けて行った活動の志向について

回 答 項 目	対象団体数 3件	
	件 数	対象団体数 に対する率
a. 現在の活動規模を拡大	1	33.3%
b. 現在の活動規模を維持	2	66.7%

3) 助成終了後の現在の財源について

助成終了後の現在の主な財源は、以下のとおりであった。(表4)

表4 助成終了後の現在の主な財源について(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 3件	
	件 数	対象団体数 に対する率
a. 国の補助金(地球環境基金以外)	0	0.0%
b. 民間財団等の助成金	1	33.3%
c. 寄付金	3	100.0%
d. 会費	2	66.7%
e. 事業収入	1	33.3%
f. その他※	1	33.3%

※「その他」の具体的な内容は「現地協力団体の事業収入」

4)2019 年度の助成を要望しなかった理由について

2019 年度の地球環境基金の助成を要望しなかった理由は、以下のとおりであった。(表5)

表5 2019 年度の助成を要望しなかった理由について(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 3件	
	件数	対象団体数 に対する率
a. 活動の目的を達成した。	1	33.3%
b. 団体の活動を休止または団体を解散した。	0	0.0%
c. 助成の申請手続き・精算が複雑すぎる。	3	100.0%
d. 助成を受けるための資格要件が乏しい。	0	0.0%
e 助成制度が要望に合わない。(助成金の用途制限等)	0	0.0%
f. その他	0	0.0%